

四 木の間に聳ゆる尊き大佛の
館ぐふたのあとには春草しげし

やさしき姿をあかなく仰ぎ

死しても死せざる聖者せいじゃの力に

しのぶも嬉しや永劫とこはのいのち

五 七里の濱邊にミルメを拾ひ

よせくる波にたはむれあひて

みあぐる彼方の海原近く

立ちたる小島ぞ今日のやどり

六 静かに更けゆく春の宵に

とりとく歌ふうたけの興も

御飯後すつかり仕度をして宿の傘を借りて、折角だからと云ふので雨を冒して窟へ出かける。山かげになつてゐるせいか思つた程の風もなく割合樂に行かれる。さざえ取りの男が例の通り荒磯に立つてゐた。「昔は寒いのに裸で大變だと思つたが、今は珍らしくなくなつた」など先生は話された。

宿で身仕度を直し、すつかり着物を端折り袴も上げて了つて作業服を羽織つた。同じ仲間乍ら吹出さすには居られない様な異形である。荷物は勿論肩や腰につけた。兩手で確りと傘をもつて頭だけかくして出かける。橋の上は幾度か風に惱まされながら足を踏みしめ踏みしめやつとの思ひで渡つた。

片瀬から電車にのる。腰から下はすつかりビショぬれなので腰をかけるのが氣持が

わるい。

窟からのかへりがけに、とあるベンチの横側の所に「イダハロ」と書いてあつたのが何だか解らないと言ひ出す人があつて思はず笑はせられてしまつたが、結局「ロハダ」と讀むのだと教へられても未だ何の意味だか解らない者も大部あつた。

藤澤から汽車にのつて品川へは豫定より二十分ばかり早く着いて解散。雨に降られて困難もしたけれど、かへつて思出が多い事と嬉しく思つた。

三月二十日 水

けふで開校初年の學年は終るのである。別に學期試験といふこともなく學年試験といふこともなく、生徒は時折々に心のゆるみをいましめられつゝ、とうとう一ヶ年を過ぎしたのであつた。

この一ヶ年を回想してみるといろいろな感想が走馬燈のやうに廻つて次から次ぎに

とあらはれて来る。今私はこれをこゝに述べる餘裕を持たない。私はこの懐かしい生徒と兎も角有益に一ヶ年を送つたことを心から悦び、更に來學年は一層の努力を以てこの教へ子を導きたいと心に誓つた。私のこのたどる道は決して平安なものではあるまい。私自身の未熟な修養の點からいろいろな困難があらうと思ふ。然し私は私の尊い立場の自覺から、私の至誠の心から、全力を盡くして私の行くべき道をたどりたいと決心してゐる。

さらばと私は春のやうな温かい氣分で懐しい教へ子と袂をわかつたのである。

わが教へ子 終

大正九年二月廿七日印刷
大正九年三月五日發行

(わが教へ子)

定價壹圓五拾錢

不許
複製

著者 栢野ヒサ

發行者 厚見純明
東京府北豐島郡西巢鴨町池袋、一、二〇一

印刷者 古川健作
東京市京橋區本八丁堀四丁目五番地

印刷所 株式會社 共榮舍印刷所
東京市京橋區本八丁堀四丁目五番地

東京市外池袋

發行所 成蹊學園出版部

電話番町三〇八五番
振替東京三三九二八番

大正九年二月改正

成蹊學園出版圖書目錄

東京池袋

成蹊學園出版部

電話番町三〇八五
振替東京二三九二八

謹告

成蹊學園出版部は創立尙日淺きにも拘らず幸にして各位の熱心なる御賛同を仰ぐことを得日に増し隆盛に赴き居り候段厚く御禮申上候就而此際一層の努力を以て健全にし内容充實せる圖書を漸次刊行して江湖諸彦に提供仕り日頃の御厚志に酬ひ申上度勉強勵進在候間何卒一層の御引立を蒙り度此段御禮旁々御願迄申上候

敬白

東京市外池袋

成蹊學園出版部

電話番町三〇八五
振替東京二三九二八

御注文につき

- 御注文は一切前金の事
- 御住所氏名楷書にて詳細御認めのこと
- 振替は
東京 二三九二八
加入者 成蹊學園出版部
- 郵券の代用御断り
- 御問合せは返信料御送りの事

月刊雜誌

新教育

(每月五日發行)

一ヶ月部 二十錢
一年部 二十四錢
但前金ノ事郵税ハ不要

現今に於ける教育雜誌中、眞に自己の信する處に向つて奮然猛進し、而してこれを實行し、更に之を世上に及ぼして、世に迷ひ、人に迷ひ、又已れに迷へる親のために、教師のために停々として説き、錯雜せる問題に對して、確固たる斷案を下すべき權威者果してあるや否や。
我新教育は如上世人のために大に警告し、或は暗中の炬火となりて社會の表裏を照し時には疾風迅雷となつて一大覺醒を促し、或は峻烈なる機鋒となつて世人を刺し、時に春風臨蕩の慈顔を以つて人に接せんとす、論旨世を憚らず、又苟合せず、教育の新道に向つて獨歩するもの。新教育の如何なるを知らんと欲するの士は先づ來つてその眞を得られよ。

出版圖書目錄

(大正九年二月) (送料不要)

中村春二先生著
教育一夕話(三版)

定價二十錢

中村成蹊學園長成蹊實務學校を設立せし當時の著、小學校の缺陷について世に訴へられしもの、挿入の石版「現今の教育缺陷の圖」は比喩適切一見何人も首肯せざるを得ざるべし。

中村春二先生著
悟り方圖解(五版)

定價三十五錢

禪門の所謂尋牛十圖を捉へ來りて教育者の修業を説くこと詳細、而して卷頭著者の補足せし一圖は現今の教育者を諷し得て痛快を極む生活難を稱ふる教育者はこの書によりて心氣一轉を要す。

中村春二先生著
教育圖解(三版)

定價四十錢

圖解により現今教育の短所を説くこと痛快、成蹊學園の教育方針を形に顯はしたるもの、色刷石版畫十二葉より成る。

成蹊學園歌

心の力 (十三版)

中形廿錢 小形十二錢

心力の偉大なることを韻文にて綴りしもの、大正の觀音經ともいふべきもの也。各地の青年團員にして毎朝合唱するもの數萬を數ふるに至れり。家庭の經典として最も適當す。文學士小林一耶先生の作。

小瀬松次郎著

成蹊小學校の一年間 (三版)

定價 二圓五十錢

教育革新の急先鋒として設立せられし成蹊小學校の一年間の日誌なり眞の教師眞の生徒は、この書の中に窺ふを得べし。大阪朝日新聞評して曰く「官儉的、繩墨的成型に束縛せられて其眞髓に徹底する能を得ざる現代教育者に對して革命を叫ぶもの」と。

桂田金造著

尋常一年の綴り方

定價 一圓二十錢

綴方は一年より課すべきものとの著者の主張を述べ、成蹊小學校にて實施せし實例を以て之を證せるもの、更に革新さるべき眞實教育の何であるべきかを暗示する事大なり。

宮阪詰宗著

斷食と修養

定價 一圓二十錢

今日の社界生活に於て、斷食の必要と其の功果、其を解釋するものはこの書なり。附録として成蹊學園に於ける斷食會の記事報告を掲ぐ。

内野台嶺著

心力歌講義

定價 三十錢

心力歌の意味を詳しく説明したるもの、心力歌を誦する人、この書によりてその意味を領得せば得る所更に大なるものあるべし。

中村春二謹編

明治天皇御製百首

定價 拾五錢

成蹊學園生徒のために謹で明治天皇陛下の御製百首を選び日常暗誦せしめ御聖徳を忍び奉ると共に言の葉の榮ゆる尊き業としたるもの。

成蹊小學校二年男生作

二葉集

定價三十錢

八才の兒童の作が、歌人を驚かしたるは何故ぞ。眞の歌は技巧より離れたるものならざるべからず。歌人は之を讀みてその目のつけ處の誤れるを悟らざるべからず。中村園長はこれ學園の寶なりと云はれたり。

成蹊學園生徒合作

夏の學校

定價壹圓六十錢

大正元年より五年に至る五年間の夏の學校日誌なり。夏期授業の當否を論ずるもの先づこの書を見るを要す。かくて諸君は自ら悔ゆるところ多かるべし。少年讀物の第一位。

三浦修吾著

學校教師論(再版)

定價一圓五十錢

多くの男女青年教師に經典として愛讀されつゝあり。或る人は、明治より大正へかけての名著の一位を占めるものなりと賞揚したり。この書の版權は學園出版部にて譲受け、再版殘部、水出版部に備へあり、發行所には既になき故、御注文は本學園に申込まれたし。

三浦修吾著
眞實の教育

定價壹圓七十錢

「學校教師論」に共鳴せられし諸君は更にこの書によつていかに著者の心の純粹に、如何にその愛の胸に溢つゝあるかを知り、眞實の教育の何處にあるかを悟り、遂に諸君の生命の眞髓に思ひ到るであらう。

小林一郎著
日新訓

定價壹圓五十錢

古今東西の歴史上の事蹟にして特に修養に資すべきもの又賢哲の言行詩歌格言俚語を一年各日に記入したるもの小林文學士特得の蘊蓄を吐露せられしもの、座右の書として他に比すべきものなかるべし。

桂田金造著
學校へ入れる迄の教育

定價一圓二十錢

家庭教育は、最も大切なり、教育は學校へ入れる前より始まる、兒童の母親はいかに兒童を取扱ふべきか、母たるものは必ず先づこの書を熟讀して子女の教養を誤らざらんことを要す。

成蹊實業專門學校生徒著

青春の血

定價壹圓

成蹊學校の教育を受け居る青年の如何に充實したる意氣を以て研學しつゝあるかはこの書に依つて知るを得べく學園の教育の内容は生徒の告白によりて遺憾なく知るを得べし。

小瀬松次郎著

兒童訓(再版)

定價七十錢

世界の五大國の一として立つべき小國民に與ふべき教訓を採りしもの、兒童の座右銘なり。鍛鍊的教育の羅針盤少年諸子への贈物として最上のものなるべし。

成蹊小學校六學年生作

思出の記

定價五十錢

小學兒童が、將に小學を卒業せんとして、往時を追憶して想を述べたるもの、まさにこれ一篇無韻の活きたる詩なり。

新教育社編纂

余が實驗せる個人指導

定價四拾五錢

教育を被教育者の全人格にまで徹底させるためには個人指導の當然必要である事は何人にも承認されてゐる事柄である。本書はその實行方法について、全國の實際家に求めて、その中の特に優れた四篇を採りたるものである、實際家諸君の一つの新しい力たるを疑はない。

學生相談所理事 出口競著

大正八年版 最新式入學案内

四六版美本
約三百五十頁
定價金壹圓也
(送料共)

著者は日本に唯一つしか無い東京學生相談所の經營者であつて、悉く多年の研究を傾けたもの、文章も読みよく出来て居て、文部省より通俗圖書として認定せられた。殊に今回は今度の高等教育擴張案に就て其の内容と將來の學校系統に説き及び、一切必要と認むる事を網羅したので、改訂増補と云ふより、寧ろ全く新しく書きかへたと云つても宜い。本書は、學齡に達した兒童をもつ親達、中學三四年に達した少年、親も兒も等しく讀ん考とすべきである、彼の一年一萬三千の半途退學者は、果して如何なる理由に基くか、周到なる用意と準備とで參が缺ける爲では無さか、單に讀み流しにされる丈の書物では無い。

成蹊叢書

中村春二先生
導く人のために

初版
千版
切再版

言々血通ひ眞に憂國の文學所論悉く事より出で、机上の空論と全く違ふを異にする。導く人のためにといふ獨り教育者のみならず、少年の心に立つもの、心得を説く事詳細に導かるべき青少年の心理を述ぶる又精緻也教育者父母兄弟姉會社官警青少年團の指導者よろしく一本を備ふべし。

三浦修吾先生

第二里を行く人 三版

定價 一圓

「第二里を行く」これに人間生活についての深い意味がある、この書はそれを開明しやうとしたのである。更に三千年に亘りて堅忍の意力を養ひ來りたる日本民族は今や其胸奥に復活の新しい生活を喚び起すべき時に際會して居る、この自覚せればならぬ大事に對して本書は大なる暗示を與へんとして居る。

小瀬松次郎先生

蘆笛集

定價 六十錢

著者の感想文寸鐵人を殺すの妙あり、終生教育者として立つ著者が現代教育について肝膽を吐露したるもの悲しく而も強きこの芦笛に啓發せらるゝところ少からざるべし。

奥田正造先生

茶味

定價 一圓

現今の墮落せる形式的骨董的茶味を慨したる著者大いに見るところありてこの著あり、遠く古人の高風に接し人々日用光中茶味の眞諦第一義を獲得せんには先づ本書を開いてのちよく茶の大道に遊往するを得るならん。

小瀬松次郎著

第五編 子供の心

定價 一圓

楽しんで子供を育て子供を教へ、子供を導くものは、先づ第一に子供の心の純な姿を理解しなければならぬ。著者はここに悟る所があつてから、子供の綴り方を通して、日々その心を讀み、その心を解し、その心を識ること、努力し、この頃漸くその一端をまとめることが出来た。それが即ちこの著である。

月刊雜誌

小

鳩

成蹊小學校發行 振替東京一〇一六七

一ヶ月前金 一ヶ月前金

二圓十錢 但郵税不要

二圓十錢

中村春二編

○女子日記文範

定價壹圓貳拾錢

成蹊女學校栢野ヒサ著

○わが教へ子

定價壹圓五拾錢

明治天皇御製百首歌かるた

一組一圓二十錢
送料十二錢

明治天皇御製百首により謹製せる
ものにて成蹊女學校栢野ヒサ著
もの出版部にて下附を乞ひ御希
望の御方に御頒ち申すこと、致候

299
55

終

